



あつぎ だより

令和3年
3月



三寒四温を繰り返すなか、庭先に咲き誇る花々を目にし、春の訪れを感じています
振り返ると、今季はインフルエンザの流行を話題にすることがなかったなと思い、
改めて、手洗い・うがい・マスクの感染対策が功を奏したと実感しています。
未だ、収束のめどが立たない新型コロナウイルスの感染防止に務めながら、元気に訪問いたします。

高齢者のフットケア



訪問をしていると、爪が切れない、炎症がある、胼胝がかえるなど、足のトラブルに接することが少なくありません。

『白癬の頻度と患者意識』の調査では、『40歳以降からの白癬の罹患率は40%を超え、さらに70歳以上の足白癬の患者の90%が爪白癬である』と報告されています。



足白癬を放置した結果、爪白癬患者が増加しているということであり、足への意識の低さが爪白癬発症の大きな要因であると言えます。

高齢者の足爪には異常が多く見られ、第1趾の15%に陥入爪、44%に肥厚爪、さらに本人・家族が切れずに放置されていることが多いと報告されています。

爪白癬の治療には『感染の芽を摘む』という役割のほか、『下肢機能を守る』という役割があります。

陥入爪の治療にも『爪の形を治す』『痛みを緩和する』という役割の他に『足の機能を守る』という役割があります。

肥厚した爪は、寝具や衣服に引っかかる、隣の指に傷をつける、血流障害がある場合は壊疽に至るという二次的のトラブル発症の原因にもなります。

足爪へのケアは、重要な意義があることを改めて確認したいと思います。



ほっと一息



一人暮らしのAさん。

ある日訪問すると「看護師さん、おめでとうはHappyでいいの？」

と聞いてきたため「どうしたの？」と聞くと、

今年高校受験のお孫さんの合格発表が3月1日にあり

合格祝いを準備していたとのこと。

お祝いの袋に、英語で「合格おめでとう」と書きたいと、辞書を引きながら考えていたとのこと。

「Congratulationns on passing」でいいんじゃないとこの日の結論。

翌週訪問すると「看護師さん、渡す相手の名前の前に、英語でなんて書くの？」と言うので「ディアじゃない」と言ったものの

「Dere? Dare? Dr? Dear?」

二人で、すったもんだ……。

結局「Toにしよう！」と

この日の結論。

80歳を過ぎ、スラスラと美しい筆記体

で書くAさんの文字に、びっくりもし感心してしまいました。

Aさんのお宅からの帰り道「そうだ、今の子供たちは、筆記体を使っていなかったんだ」と思い出し……

でもAさんの気持ちは伝わると信じてます。

コロナウイルス抗体検査を行いました

コロナウイルスの感染が収束しない中、当ステーションでは

2回目のPCR検査を実施いたしました。

結果、スタッフ全員が陰性であることを確認しました。

引き続き、感染予防対策をとりながら訪問いたします。



☎243-0018

神奈川県厚木市中町 K.SQUARE302

タツミ訪問看護ステーション厚木

☎046-224-6120 📠046-224-6121

介護保険事業所番号 1462990166